# 日刊 六夕 磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷人 福島縣石城郡平町[illegible]十四
印刷所 [illegible]活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊


## 平町役場の新築 愈々明春着工

### 市役所として遜色ないもの 五日平町會で決定

屢々論議されつゝあつた平町役場の新築は町會議員の大多數が不景氣の時が却つて建設の絶好であるとなし建設すべく町當局に於て設計中の處、漸やく設計が成つたので五日平町會に提案し之に關する委員として井上茂作、星野淸吉、加納五郎、岩本重雄、會川卯三郎、渡邊貫一、森本盛一、野崎滿藏、吉田定太郎の各氏を任命したが、新築役場の敷地は既に買收濟の平町南町裏の千坪に建築する方針である本館は鐵筋コンクリート造二階建一棟で建坪は百七十尺坪一勺この延坪數三百七十一坪六合で工費七萬一千圓である、工費は現在の平町役場敷地、元平商業學校敷地、元平陽女學校敷地、共濟病院脇の町有地を賣却して之に充てる筈で着工は明年四月の豫定である、新築役場には東に廣間、公衆溜、事務室、町長室、助役室、應接室、新聞記者室、收入役室、機械室印刷室、宿直室、二階應接室委員室、會議室、貴賓室、豫備室。議長室、吏員室等凡て市役所として恥ちぬ設備を施す筈で、平職業紹介所、平水道部も本館に移轉する筈である。

## 湯本有志 大學上京

### 地下採掘問題

前入山坑務所長吉本眞一氏提起の石城郡湯本町地下採掘に關する行政訴訟は從來當該主務官廳と原告と從參加の立場にある湯本町と三つ巴の紛爭を繼續し來つたが右に關する最後の口頭審問はいよ／＼七日東京麴町區紀尾井町の行政裁判所において開廷さるゝ筈で同町からは行政訴訟實行委員外多數が上京傍聽する形勢にあるが該裁判の結果によつてはその勝敗何れに歸着するも更に何等かの形式において新なる紛爭が繰返さるゝではないかと豫想さる。

## 性源寺住職の本葬を執行

既報過日遷化した平町長橋町性源寺住職渡邊則成師の本葬は七日午後三時より執行さるゝ筈であるが同夫人雄子も二日遂に後を追つて死原せる爲め同日午後一時から葬儀執行すると。

## 賜饌謹製を命ぜられた光榮の三料理店

### 佐瀬事務官來平打合せ

大饗第一日の來る十六日における縣下十五ヶ所の賜饌場中平町において行はるゝ分は賜饌係長佐瀬農務課長が四日夜來平五日午前中町役場町長室において谷口樓、住吉屋本店、尼子亭の各主人を招致し伏見町長立會の下に當日賜はるべき御料理の謹製方に就いて種々打合せする處あり當日その光榮に浴する濱三郡八百一名に對する饗饌は多分前記三名の手によつて謹製納入さるゝものと覗られてゐるが御料理の獻立は

鮭のてり燒、昆布卷き、菊の葉を配したる菓子、鮑の鹽蒸し、燒鳥、燒栗、豆の以上七品に悠記田の謹作米を混じたる赤飯並に菊形紅白の御菓子である。

### ▲入山の薰秋會

石城郡湯本温泉及入山炭礦の菊花同好者より成る入山薰秋會の菊花展覽會は三日より十日間第五坑前の廣場において開催中平町の品評會を相待つて多大の人氣を博してゐる。

## 今が見頃の菊人形

### 五日から一般公開

千秋會平支部の御大典奉祝菊花大會は去る三日開場の筈であつたが都合により人形師の來平がのびたため豫定より遲れて五日午後に至り漸く菊人形の作成を了り同時に一般公開の蓋をあけた、菊人形は同地最初の試みであり多大の人氣を煽つて今日以後の入場者極めて多數なるべきを豫想されてゐるが人形師は天の岩戶（手力男の命猿田彥大神宇堆女の命）櫻井驛楠公父子の訣れ（楠正成同正行）曾我の討入富士の狩屋（曾我の十郎祐成五郎時致虎御前）辨慶五條橋（御曹司牛若丸武藏坊辨慶）小野道風などで色とり／＼の配合宜しきを得たる菊花の絢爛は秋陽に映發して眞に目を奪ふばかりであり尙大輪菊懸崖菊數百点が場內狹きまでにならべられそれぞれ異なつた趣を見せてる。

## 青年團の 提灯行列

平青年團では來る十日御大典當日午後二時平第一小學校に於て奉祝式を擧行し午後五時から平町役場前に集合し提灯行列を行ふ事になつたが道順は田町、擂搥小路、一丁目本町大通り鎌田町、月見町、新川町、大工町、白銀町、南町、鍛冶町、材木町長橋町、研町、紺屋町を經て縣社前に解散の豫定である。

### ▲最高百四十圓

小田炭礦退職手當去月九日付を以て行はれたる小田炭礦の整理によつて退職する事となつた役員吉井[illegible]氏が廿一名に對する退職手當は一人當り最高百四十圓とし退山するものに限つて支給される事となつた。

## 平町上水道擴張工事方法（二）

### 四 沈澱池

沈澱池は既設沈澱池に併行して東側に增設す其の構造大体に於て前設計と同樣長方形とし上部長百三十尺同巾百十八尺下部長百三尺五寸同巾九十二尺側壁法は一割勾配とす引入口に於て十三尺五寸引出口に於て四尺即ち底面取出口に向ひ五寸の勾配を附す有効水深十尺（此の有効貯水量は十二萬立方尺なり即ち既設二池に於ける十八萬立方尺を合せ合計三十萬立方尺となる一日最大給水量二十萬立方尺に對し一日半の貯水量なり）其の下部は浮遊物沈澱の積に充つ構造は池底厚八寸を二層に分ち下部厚六寸上部厚二寸とし其間に「アスフアルト」厚五分を塗抹す壁厚は下部十二尺分を七寸上部を五寸の混凝土工とし長約十八尺毎に「アスフアルト」伸縮目地を挿入表面には厚三寸長二尺四寸巾一尺二寸五分の混凝土方塊を張付く又引入口には內徑二百五十耗鐵管を引出口には浮動管を取付け內徑二百五十耗鐵管により迄水し更に泥吐管を敷設し池內撤除の用に供す池の滿水面高は基面上百十四尺とす。

### 五 濾過池

濾過池は長方形にして二面連續のもの營個を築造す。各池の大さは長九十六尺巾六十尺池深平均八尺三寸五分水深平均六尺七寸五分とす內調整井長十尺五寸巾八尺を控除するも裕に其有効面積五千六百平方尺あり濾過速度は一晝夜十尺とし一池にて五萬六千立方尺の淸淨水を生ず各池は全部一、三、六、配合混凝土を以て築造し池底は厚八寸の混凝土にしで之れを下部六寸及上部二寸の二回打とし其間に「アスフアルト」工厚五分を施すものとす尙ほ周圍側壁は高七尺六寸に對し內面は五寸の法足又背面一尺五寸の法足を附し上巾厚二尺下巾四尺の混凝土造とす向は側壁も同樣二回打ちとす最初背面より一尺六寸の處まで混凝土を施し其の面に「アスフアルト」厚三分を塗抹し更に十六番鐵鋼を以て之れを複ひ然る後殘り厚四寸の混凝土を打足す又地盤軟弱個所には割栗石基礎を施すものとす池の中央には巾二尺の滯を設げ引出口に向ひ四寸二分勾配を付す即ち二百分の一勾配とす滯上には鐵筋混凝土の蓋を覆ひ池床は中央滯に向ひ一寸の勾配を附し濾過池の床面には長二尺徑四寸の角土管を六尺間隔に配列し之れを中央滯に向はしめ通水用に供す然して其の上に砂利厚一尺二寸之を三層に分ち下層は玉石徑五寸乃至三寸順次其の粒を小にし然る上細砂厚二尺八寸を溜き常に砂上二尺五寸の水深を保たしけ調整井は濾過池內にあり混凝土造にして室を三尺及四尺五寸の二ッに區劃し內部に堰を設け開閉自在の量水扉を取付け濾過速度の調節を行ふものとす堰下には內徑二百耗管二本を敷設し一は引出管一は排泥用に供す引出管は調整井を出て直ちに四百耗管となる即ち既設濾過池三個分と共に合流して集合井に集注するものとす此延長四十間なり濾過池滿水面は基面上二百三尺五寸とす。

## 第四小學校の敷地買收

### 委員決る

平町第四小學校は二十四學級の校舍を昭和五年度に建設する豫定であるが、之が敷地五千四百坪を平町南町裏に買收する事となり左の如く委員を任命した。

櫻井淸、大森勇、阿部太平、萩原義雄、吉田五平、大谷久藏、諸橋國松、丹野榮三郎、花澤久一郎

## 水道工事の委員任命

工費三十七萬圓の平水道擴張工事の提案は十一名の委員附托昨報原案可決は委員附托の誤りとなつたが委員左の如く結局原案可決される事は明らかである。

委員、青沼鋒太郎、井上茂作、鷹崎貞衞、大森勇、松崎菊三郎、萩原義雄、遠藤林松、丹野榮三郎、野崎滿藏、永山義太郎、佐々木龍若

### ▲青沼氏寄附

平町城山青沼鋒太郎氏は御大典に際し掲揚すべき國旗を求められぬ人々に平町役場の手を經て國族二十四旒を寄附した。

### ▲漁業起債認可

縣へ申請中にあつた石城郡四倉漁業組合からの起債九千五圓の件は二日縣から認可された。

## 露國人 平署に感謝

東京市外池袋居住洋服商露國人インダー（二四）は五日正午平警察署に來り平町鍛冶町鑄物職工田邊武雄（二四）に三十八圓の洋服を賣つたが十圓を支拂つたのみで殘金を拂はぬから取りに來たから宜敷願ふとの事に、平署に居合はした片寄警部補、橋谷田部長等が同情し本人を呼び出して圓滿解決したが平署の親切な處置に露國人は感謝してゐた。

# 高壓的手段に脅かされた貝泊村

## 不本意乍ら官行製炭に賛成

平營林署における官行製炭事業實施に對して濱三郡木炭同業組合では同事業中止同盟會を組織し過般委員を擧げ大擧して上京主務省始め各關係官廳を歷訪し中止の陳情をする處あつた。その後官行製炭事業に對しては地元貝泊部落では寧ろ官行製炭を希望して居ると言ふので中止運動も徒勞に歸したがその間に就て探聞するところに依ると官行製炭實施に就て早くも利權屋の手が延び

地元製炭業者に對し官行製炭に反對する場合は從來民間の製炭業者に拂下げて居た山林を全部撤回し拂下げを禁止する

と言ふ高壓的手段を取つたので最初反對した連中も背に腹はかへられず官行製炭に賛成の調印をしたもので從つて同一人が兩者に賛成の調印をしたといふ面白い現象を呈することになつたこの事實を知つた中止同盟會ではその高壓的手段に對し非常に憤慨し各縣議始め各代議士を働かし引續き中止運動を行つて居るがこれに對する主務省の態度は頗る曖昧である爲ます〳〵疑惑を深めつゝある。

## 愈々今晩 演奏大會

平町磐城經濟新報、磐城調査新報、磐城海岸新報の三社合同主催御大典奉祝演藝大會は愈々今六日午後五時から平劇場で開催の筈で出演者並に番組は左の如く盛況を豫想されてゐる。

▲演奏種目

義太夫、長唄、手踊、薩摩琵琶、筑前琵琶、落語、相馬流山、二返かへし、磯節、佐渡おけさ、追分、小原節、都々逸、浪花節

▲出演者名

竹本錦祥、竹本祖華、大原錦陵、吉田旭良、中村三太、宮崎洗張店、駒勇、鈴木信一、薄信雄、佐藤正、東家小つばめ、小澤太夫。

琴治（三好家）小つや（竹の家）いく子（久本）榮太郎（林家）高助（開花）月子（湖月）花香（橘家）榮（榮家）久松（久本）喜代奴（久本）とん子（福清）小猫（仲家）榮勇（谷口）小光（品澤）宇佐子（玉川）小清（仲家）お千代子（品澤）玉千代（玉川）三太郎（品澤）金太郎（吉野や）八千代（久本）

## ▲本社メタル獲得

平第一小學校運動會は本社で寄贈したメタルは左の三君の手に歸した。

▲四百米米高二山野邊初、高一北村正三

## 七五三の祝のある家へ

御維新後世は明治大正を經て昭和の御代となりましても當地方年中行中の重なるものは多く昔の儘舊曆によつて行はれてゐる樣ですが勿論舊慣が總て惡いと云ふのではありませんが改めてよいものは改めた方がよいではないでせうか差當り七五三の御祝の如き然も今年は吾々國民が心の底から御祝申上げる最も御芽出度い御大典の月にも當りますので此機會に記念として是非平町だけでも率先して今年から新曆十一月十五日と改めたいものです、折角子を思ふ親心で心をこめたお仕度も是迄の例（舊十一月十五日）によりますと快晴の日は極稀で雨か雪さもなければ磐城名物のカラツ風第一子供が可愛想です、殊に十二月の年末で忙がしい時に何を苦しんで舊曆によつてやらなければならないと云ふ理由は少しも見出されない樣です、七五三の祝のある家並に神社關係の方々の御一考を煩はしたいものです。

（稻荷山根岸老人）


△共存ト共榮
△簡易ノ金融
△趣味ノ貯蓄
△誠意ト堅固
磐城無盡商會
△縣内
△至ル所ニ取扱所アリ
△何時デモ申込下サイ
△絶エズ會員ヲ募リマス

新築移轉御披露（平町南町舊診療所向ひ）
耳鼻科
咽喉科
專門
病室完備
自炊の便あり
平町南町
電話一七〇番
大和田耳鼻咽喉科醫院

伊勢參宮
京都紫宸殿拜觀
奈良巡拜
遊覽團體開催
◆會期……明春貳月貳拾日
◆會費……廿九圓五拾錢
但し（申込と同時に金五圓を納入し殘額は二月迄五回に分納の事）
◆人員……貳百名の豫定
◆申込……事務所尼子亭
＝通信班及び救護班を設く＝
即刻申込まれよ！
募集期間中と雖も滿員の際は締切り候
主催者　尼子亭　吉田直之助
會計監督　山崎清三
會計　志賀盛榮
賛助員　平驛長　豐崎治助
後援
常盤毎日新聞社
磐城新聞社
磐城時報社
＝（詳細は事務所に問合されたし度し）＝
事務所　尼子亭
松ケ岡公園内（電話二三〇番）
昭和參年十月

治淋新劑
強アンチゴー
急性淋病、慢性淋病、消渴、膀胱炎等ニ用ヒテ偉大ノ卓効ヲ奏ス
特約販賣店　平町一丁目　大平屋藥店　電話六四二番

御心配は御無用です
淋病、消渴、膀胱カタル等の諸症
偉効ある
優秀新藥トリックス
定價二圓、三圓、五圓
を御試し下さい
特約店　平町五丁目角　山野邊藥局

內臟外科
骨關節外科
整形外科
專門　藤本順
產婦人科
院長　木村寅次郎
外科
產婦人科
木村醫院
平町新川町（電話一六四）

◎無煙無臭デ火付ガ早ク、火持チ良ク、火力ガ強ク、日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン。
◎ソレデ値段ハ大變オ安ク、木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス。
◎ドンナニ喰はずきらいノ人デモ一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス。
◎値段ハ壹箱金貳圓個數ハ約八百個內外
◎御申越次第見本持參御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前
電話二三七
阿部石炭商店

外科專門
診療科目
外科　一般
內臟外科
花柳病科
▲診療時間（午前八時より午後九時まで但し急患は此の限にあらず）
入院隨意
平町田町大通り（電話四三六番）
安齋外科醫院


印刷物の御用は……加納活版所